

Sin Ninja Spirit

Kaishin

yashima kiyohiko



幕末の頃に世界で劣らない科学の発達した先進国を目指した日本は天皇の命令で刀狩り制度を実施して逆らう侍や忍者を旧幕府の軍隊が攻めて行き、家宝である悪霊払いの斬神刀を守るためたった一人の忍者勇斗だけが伊賀の里の危機から脱出したが、助けを求めてやってきた大阪城に居座る徳川慶喜が物の怪となって攻撃して空に飛んで行き、追いかけていくたびに物の怪と出会っていく勇斗は三冠王と言う三大物の怪たちの陰謀阻止するために勇斗は生きていた父の泰三と妹の愛美と険しい阿修羅島に向かって行って、昔、宇宙人が寄越した

三次元装置を作動させて時空転送の門を潜ろうとしていた三冠王を止めることができずに未来の日本へ行かしてしまった勇斗と泰三と愛美は時空転送の門を潜るために必要な大阪城の倉にある銀玉を見つけ出して三次元装置の時間を1分早く設定して三冠王たちより早く未来の日本へ辿り着いた勇斗と泰三と愛美は三冠王と戦い

三冠王の二人を倒したが、一人だけ変幻自在を使って姿を消して行った。悪霊どもと骸骨の影武者たちが同化して巨大ながしがしゃ髑髏となって、なんばの街を破壊していたところへ勇斗と泰三と愛美は立ち向かって行き、がしがしゃ髑髏を危機一髪で倒したが、黒いカルマとなって大阪と東京の何処か散らばって行った。鳴門にある神社で青竹でできたたたきを授かって残りの物の怪を倒して現代は教師に扮して大阪と東京の都市に出没する物の怪を全て退治して行ったが、奈落の底に落ちて行った三冠王は地獄から甦ようと企み僕である物の怪を使って阿修羅像にマドゥーとして一時的に甦らせて世間にマドゥー教を伝えてこの世に生き返ることを六道輪廻で人々に崇められることで知って動いていたが、それに嗅ぎ付けた勇斗と泰三と愛美と生きていた貞明はマドゥーを倒して大仏の力によって三冠王は火と硫黄の血の池地獄に落されて永遠の苦しみを受けた。

2014年2月28日の朝に戊辰戦争が起きて夥しい旧幕府軍が悪霊たちが変わって襲いかかってくる悪夢を見て驚き目覚めた勇斗はマンションの部屋のベットに横になっている沙織を起こして抱きしめて「早く過去に戻って父上を助けに行けに行かなければ旧幕府軍に殺される」と言って強く抱きしめて心身を癒して一人で愛美のいるなんばの花屋に向かって行った。2014年3月1日の摩天楼口サンゼルスで日系人の龍児木村がハイスクール内に置いて恋焦がれたキャサリン本多に意中を伝えるべきと悔やんでいたのは醜男のジェイソン高木になぜかキャサリンが振り向いてしまったことだった。それ以来はイケメンが誇りであるプライドを傷けられ嘘のようでショックでキャサリンは仲良くなれば誰でもいいのかと思うようになり自分の気持ちを知っていた周りの友達すら信用できずに輪から離れて行った。ただ一番の親友の一人と女友達の一人が頼りだった。

いつの日か隅と隅に離れたクラスなのに龍児のいるクラスにジェイソンはやってきては龍児をおちょくりだして暴力を振るうようになった。龍児はジェイソンに心を向けたキャサリンが背後にいると思うと手も足もだせなかった。一時は恋の悩みを聞いてくれた弱みを握っているジェイソンや本当は女友達から聞いて自分の意中を知ってるキャサリンや自分の気持ちを知っている友達らの迫害を受けた。その後には女友達が病気で亡くなって親友はジェイソンの仲間となり裏切ら

れて毎晩と眠れなくなり幻聴が聞こえるようになっていた。ある日の放課後にハイスクールのグラウンドでジェイソンを率いる元友達らに集団暴行を受けた龍児は倒れてジェイソンたちは何処か逃げて行った。龍児は病院に運ばれたが全身打撲で死亡した。遺体を解剖室に保管されていた。トーマス松元博士によると全身あざだらけで肋骨を何本か折っていたことから警察が暴行事件とみて捜査し始めた。トーマス博士は解剖室を後にしたときに病棟の入り口にいる黒く蝙蝠の翼があり4本足で3本指である東洋ドラゴン応龍は夜勤で巡回している警備員が病棟の入り口の扉を開けたときを狙って襲いかかり警備員は

気絶して応龍は病棟に忍びより1階にある解剖室に侵入した。応龍は寝台の上の遺体となった龍児に寄生するかのようになり裸体に3本指の爪から刺青を染めて行った。背中や胸や腕に応龍のタトゥーが刻まれた龍児は甦り目覚めて体を起こした。応龍は去って行き龍児に幻聴なのかまた闇の声で「私は応龍だ 奴らに復習をするのだ お前と一体となった 力を貸そう」と言ってきた。憎悪を持った妖魔に取り付かれた龍児はジェイソンたちを探して復習することを誓った。

龍児は病棟から出て行きロス街にあるガソスタで給油してアウトローがハーレーを置いて売店に煙草を買いに行ったアウトローの隙を見てゴーグルにメットを被ってハーレーを掻っ払い突っ走り武器屋のガラスドアを突っ込み割って侵入して警報がなりショットガンに手榴弾に拳銃にナイフを盗み出しハーレーを走らして、ちょうど金曜日に車を乗り回し夜遊びしをている自分の気持ちを踏み躪った友達らがコンビニから出てくるのを見つけ出した。やつらが車を走らせて行く

とたまたま揃った友達ら5人を乗せた車の後ろに追ってハーレーを走らせる龍児はショットガンを片手に持って後方の右車輪に向けて発砲してパンクさせて蛇行運転しながら峠を突っ走る車の左サイドにハーレーを乗ってきた龍児はゴーグルとメットを外して驚かせ「よくも俺を裏切った 地獄で待ってるで」と言って車の開いてるドア窓に手榴弾を放り投げて峠のカーブを曲がり切れずグラウンドキャニオンの丘の上から爆発して落ちて行った。谷底に落下して燃焼した車の周辺に炎でDEVILと言う文字が広がっていた。翌朝10時頃にロサンゼルス署の潔癖なマークガブリエル刑事と黒人のおっちょこちょいなマイクドーソン刑事が黒焦げた車の周りにDEVILデビルと言う文字が焦げ跡として残っていたことを参考にして現場検証を始めた。リトルトーキョー署捜査課では今日の夜2時頃にガソスタでハーレーを盗まれたアウトローの男が捜査願いを出していた。アウトローの男に事情聴取すると窃盗したと思われる者の特徴は腕にタトゥーがあったことと体型は二十歳前ぐらいで痩せ形で日系人であり容姿はメットとゴーグルを被っていたために分かりにくいと聞いた。最初はジャパニーズヤクザと思ったが若すぎて否定されたが、昨日の夜からロサンゼルス病棟にあった遺体が消えたことと車ごとグラウンドキャニオン丘の上から落ちて亡くなった5人の友達らの事件の関連があるかをハイスクール内で捜査にあたった。龍児木村は昨夜に惨たらしい姿で発見された5人の友達らにハイスクール内でいじめがあったのが解った。それで消えた遺体が勝手に動き出して5人の友達らを復習したと考えるには難しいと答えたトーマス博士はまるで悪魔に取り憑かれたとしか思えない顔していた。マーク刑事は現場に残されたDEVILと言う文字の意味が他殺であって本当に悪魔の仕業なのかと言う疑惑と手榴弾によって車が落下するまで爆破していたことが判明した。木村が何らかの理由で生き返っていたとしたら、武器屋の窃盗とアウトローが証言したタトゥーの男とは一致しない

のではないかと思った。マイケル刑事は木村の自宅を訪れてシングルマザーに一人息子に先立たれてご冥福を祈るあまり、寂しいような顔して現れたシングルマザーは「あの子が死ぬなんて嘘に決まってるわ 何処かで生きてますよね刑事さん」と言ってきた。マイケル刑事は「そうですね 生きてるかも知れないんです ですから我々は捜査中してます もしかすると殺人未遂を起こしていると疑いがあるんです」と言った。シングルマザーは「あの子はそんな子じゃありません 何かに間違えじゃないですか」と言った。マイケル刑事は「我々もそう願っています 失礼します」と出て行った。日系が多い問題が起きたハイスクールのある管轄下のリトルトーキョー署では木村に暴行したいじめの主犯格と見られるジェイソン高木とその男女関係で指示を

していたと考えられるキャサリン本多が浮上した。もしかすると木村が生きていたとしたら、その二人も復習するだろうと思いき安全確保と及び暴行事件について調べることにした。リトルトーキョー署は管轄外のロサンゼルス署には一切この事件に関与しないようにと言われていたが、グランドキャニオンの丘で殺人事件が起きたのはロスだから、動かないわけには行かなかったマーク刑事とマイケル刑事は単独で動き出すことにした。その夜にジェイソンの自宅付近を車上でマーク刑事とマイケル刑事は張り込んでたときにリトルトーキョー署の奴らがやってきて「貴様ら直ちにこの場所から離れないと違法捜査として訴えるぞ」と言った。マーク刑事は「冗談じゃねえお前らそんなことよりキャサリン宅を嚴重に張り込んでろ」と言った。リトルトーキョー署の奴らは「とっくに張り込んでるよ」と言った。そうやってるうちにジェイソンは自宅から出て行きバイクを

走らせて行った。それに気づいたマーク刑事とマイケル刑事とリトルトーキョー署の奴らは咄嗟に車に乗って

ジェイソンが乗ったバイクを追って行った。フリーハイウェイに入って行ったジェイソンを追って行く刑事らもフリーハイウェイに入って行って、暫くするとゴーグルにメットを被った腕にタトゥーのある男がハーレーに乗って走らせてきてジェイソンの後ろを追って行った。追跡する刑事らは「そのハーレー止まりなさい」とスピーカーで言ってサイレンサーを鳴らした。そしたらハーレーに乗ったタトゥーの男が刑事らの車に拳銃で発砲してきた。タトゥーの男に向けて刑事らも発砲して行ったが、蛇行するハーレーに乗ったタトゥーの男に命中せずに先頭で追っていたリトルトーキョー署の奴らの車は撃ってきたタトゥーの男に運転していた刑事に当たって右に切って横転した。マーク刑事とマイケル刑事が乗った車はそのままハーレーに乗ったタトゥーの男を追って横につけようとしたが、撃ってきたタトゥーの男に車のウィンドウを割られてタイヤを撃たれて

スピンして追跡を止まった。無線でマーク刑事は応援を呼んでが、異変に気づいたジェイソンは後ろを追ってくるハーレーのタトゥーの男が5人の友達らを殺した犯人だと思って猛スピードでバイクを飛ばして行った。

フリーハイウェイを降りて行ったジェイソンは立体駐車場の屋上に逃げ隠れたいたが、ハーレー

のタトゥーの男は立体駐車場に追ってやってきた。逃げ場を失ったジェイソンはバイクから離れて行ったが、ハーレーを止めたタトゥーの男に拳銃で足を撃たれて倒れ込んだ。タトゥーの男はハーレーから離れてジェイソンのところにきて足を踏みつけた。そしてタトゥーの男はゴーグルとメットを外して死んだはずの龍児木村であること

を明かした。驚いたジェイソンは「助けてくれ あの女の指示されたようにやっただけだ 殺すつもりなんかなかった 弾みだった」と痛々しそうに言った。ジェイソンは龍児が持っているナイフを奪って太腿にナイフを突いて挟み「キャサリンならくれてやる あんな女は好みじゃないんだ」と言った。龍児は「ふざけるな あんな湿気たへんてこ女に もう用はない」と言ってジェイソンを蹴り飛ばし倒して殴りつけた。ジェイソンはまた龍児に太股に突き刺したナイフを挟み出し蹴り龍児を蹴り飛ばした。龍児は突き刺さったナイフを抜いて「俺は 一度死んで甦った こんなのでっぴらだ」と言って立ち上がってジェイソンも起き上がり立ち上がってきて殴りあった最後の一撃で龍児はジェイソンの腹を殴って膝をつけたジェイソンの額にナイフを突き刺して「この薄臭い寄生虫野郎が」と言って顔面を蹴り飛ばして倒した。立体駐車場にパトカーが数台ほど上がってきてるのが分かって逃げ場を失った龍児のところに応龍が現れて龍児を背に乗せて飛んで行った。立体駐車場の屋上までパトカーに乗り合わせてきたマーク刑事とマイケル刑事はパトカーから降りて乗り捨てられたハーレーの盗難車両と駐車中の車体のボンネットの上に横たわっていたジェイソンが額から血を流して腹を引き裂かれて愚かしい姿で発見した。そしてその周辺にはまたDEVILと言う文字がペイントされていた。

翌朝にキャサリンはジェイソンの死の知らせを聞き不安と恐怖のあまり悲しみ始め精神に疾患が起きて以来は一週間ほど精神科病棟で薬物療法して入院していた。ある日の夜に精神科病棟に夜勤パトロール中の警備員

の後頭部を警備室で盗んだ警棒で強く殴って気絶させて忍びよった龍児はキャサリンが休まる部屋へとやってきた。照明のライトを付けられて龍児の姿に驚いて「この悪魔 殺人鬼 何で生きていたんだよ」と言った。

龍児は「お前は好きなれば嫌う悪女を演じて権力を奪って奴らに嫌がらせ行為を指示させていた 何のためにそんなことをしてきた」と聞いた。キャサリンは「だってあんたは背もあってイケメンだし他の女の子にモテるでしょ 私はブスだから」と答えた。龍児は「そんな得体の知れない嘘をつくなんて どこまで卑しい女なんだ」と言った。キャサリンは部屋から逃げ出して行き階段を上って屋上に扉を開いて入って行った。龍児はそれを追って階段を上って屋上の扉を開いて入って行ってキャサリンを探し出して「本当の理由を言ってくれたら殺さない」と聞いた。キャサリンは「元さやのときデートの邪魔をされたのが気にいらなかったのよ」と答えて柵を乗り越えて飛び降り自殺を計った。翌日の朝にマーク刑事とマイケル刑事は精神科の病棟の芝生の上に横たわってるキャサリンのかわいそうな姿で発見した。そしてその周辺にもDEVILと言う花の文字が置かれていた。そしてマーク刑事は「やっぱり遅かったか これで蹴りがついたじゃないか龍児木村」と言った。マイケル刑事は「後は親友がいますよ」と言った。マーク刑事は「付け上がる狂気を抑えなければならないが不気味な怪だもの木村といたのは確かだが 何が問題があって追い込まれ自殺したのかキャサリンは地獄を彷徨うだろう」と言った。街の狭い路地

でパーカーを羽織って身を隠している龍児に応龍の聲が聞こえ始め「悪魔と契約をしてるお前は俺様と切れると死ぬのだ」「だが生きてる間は無双の不死身の力を持っている」と言ってきた。その後龍児は親友は親友のバイト先で終わって裏口から出てくるのを待っていた。やってきて「生きていたのか もうそんなことするなよ 俺は別に死んでもいいけど決して僕はお前を裏切ったんじゃない ジェイソンの奴が勝手に仲間に加えていただけだ」と言った。龍児は「お前はたった一人の親友だった 殺す気はない でも俺はもう死んでる 悪魔に身放されたら終わりなんだ 復習は終わった 身を隠すために日本に渡るよ じゃ」と言って何処かへ去って行った。その夜にマーク刑事の宅に忍びよった龍児は台所にいる奥さんのタリアガブリエルを掴んでナイフを奪って口を塞いで首につけてマーク刑事のいる居間にやってきた。マーク刑事は驚いて拳銃を取り出し龍児に向けて「馬鹿な真似はよせ 話なら聞く」と言った。龍児は「俺はあなたが知ってる通り悪魔が乗り移ったけだけのものです もう死んでます だから死んだことにして逃してください」と頼んだ。マーク刑事は「しかし君は6人の犠牲者と刑事の二人に重軽傷を追わして不法な裁きをした」と訴えた。龍児は「誑惑した複雑な想いは解けた これでやること全て終わった 見逃してください」と言ってナイフを捨てて外へ逃げて行った。外に追いかけて行ったマーク刑事は龍児の背後に拳銃で6発ほど銃弾を撃ったが倒れなかった。死神の龍児のところに応龍が現れ背の上に乘せて飛んで行った。マーク刑事は「奴はゾンビか 危険な威力があった」と呟いて今後は何事もないことを検討した。2014年3月22日大阪で天王寺高校の勇斗は教師を辞任すると共に終業式があった。相生クラスの教室に戻った生徒たちは勇斗の最後のスピーチが終わってから勇斗は生徒たちに状況変換の術で解除してこれまでの全ての記憶を消した。それから生徒たちは下校して行ったが、クラスに戻ってみた勇斗は黒板に「忍者の姿で描かれた自分と思える似顔絵に相生先生さよならと書かれていたのを見て「お前ら今年受験頑張れよ 解除が甘かったか」と言って感涙した。翌朝にこないだ愛美のバイト先で話した通りに泰三の父上が兵法として旧幕軍隊に取られるまでの柘榴が咲く5月頃に過去に戻ることが決まった。ロスから応龍に乗って大阪にやってきたタトゥーのある龍児はここで生きて行くために道頓堀にある呼び込みの風俗で働くことにした。売春宿の住み込みで働く龍児には裏仕事で人人売買の非道と悪漢の稼業もあった。生きて行くにはしかたなかった龍児は人人売買をするために女性を誘拐して行った。大阪府警察の警部補橋啓介刑事は連続誘拐事件について動き始めた。勇斗と佇んでるマンションから出た勇斗の彼女の沙織は買い物をしにいつものデパートに向かって行った。奥ゆかしい可憐な瞳の沙織に目をつけた車で移動中の龍児は一目のつかない場所で沙織に銃を向け脅して車に誘い込んだ。沙織は誘拐された車で移動した売春宿で20人の美人女性たちが監禁された部屋に入れられた。橋刑事は住所不定のタトゥーの男を以前からマークしていた目撃による道頓堀の風俗を当たって行った。勇斗は沙織が何者かに誘拐されたと知らずに帰りの遅い沙織を心配して探しになんばの街ミナミを歩き回って道頓堀に辿り着いた。怪しい雑居ビルで風俗営業しているお店を調べにきた橋刑事は「こちらに龍のタトゥーのある男がいないか」

「誘拐罪の疑いが出ております」と訪ねて「中の様子を調べさせて貰えませんか」と言った。そしたら店員は

「いえいえ それは困ります 内にはタトゥーのある者は雇え入れてませんので」と断った。橘刑事は戎橋の直ぐ側にある交番で怪しい雑居ビルの風俗を手配することにした。沙織を探している勇斗は戎橋の交番に行き

もしかしたら誘拐されたかも知れないと被害届けを出した。戎橋の交番でたまたまいた橘刑事は勇斗に「ここ最近に渡って連続誘拐が起きていて我々は道頓堀の風俗を捜査している最中なんだ」と言った。勇斗は「それならば教えてください もう調べがついているでしょう」と言った。橘刑事は「まだ はっきりとしたことではないが それは教えられない」と言った。勇斗は「お願いします」と言ってそこから動こうとしなかった。

過去に違法勧誘行為の件あって風営法違反で取り締まることにした雑居ビルの風俗に逮捕条例を持った橘刑事は勇斗に被害者の重要参考人としてきて貰うことにした。橘刑事は店員たちに逮捕条例を言い渡して雑居ビルの風俗（売春宿）に突入した。監禁された部屋にいる店主は捕えた獲物の女性たちに「お前らは明日の貨物船に乗せてアメリカへ売られリトルトーキョーの風俗街で娼婦に使われるのだ」と言っていたところに警察たちがやってきて取り押さえられた。女性たちは無事に解放されたが、問題の誘拐犯のタトゥーの男が住み込んだ部屋を開いたときに4階の窓の外から飛び降りて逃走した。雑居ビルの裏にいた警官たちに発砲されながらもネオンで光るビルにグリコマークの看板が見える戎橋に逃げてきた龍児は黒頭巾に黒い装束を装った忍者勇斗が目の前に立っていたの見て立ち止まった。警察や民衆の集まる中で龍児は持っていた日本刀を鞘から抜いて「お前 退かないと斬るぞ」と言った。勇斗は「貴様か 誘拐犯は」「斬れるものなら斬ってみろ」と言って斬神刀を赤い鞘から抜いて斬り合い始めた。血の気のない龍児は斬り裂かれたシャツを脱ぎ捨てて腕や背中のタトゥーを見せた。何度も斬りつけても倒れずにいる血の流れのない龍児に勇斗は妖魔が潜んでる応龍の刺青が弱点と感じて斬神刀で斬り裂いた。そしたら龍児は倒れて応龍が姿を現して腕や背中から龍の爪先に戻って行った。そして勇斗は持っている蒼玉サファイアが魂が宿るかのように青く光っているのを見て手に取り出して助けを念じた。すると夜の天空の空がキラキラと輝き青龍が現れて応龍に火炎痕を放って攻撃をして行った。青龍と赤龍と白龍と黄龍の四龍の長である神の精の応龍（黒龍）も火炎弾を放って攻撃して行って青龍は応龍の威力に負けて戎橋に流れる川に落ちて行った。なんばのバイト先にいる愛美は飛龍の戦いに虫が騒ぎ出して

赤い珠玉が魂が宿るかのように赤く光って手に取って願いを祈った。すると全身に火を放出した飛龍が現れて応龍に火炎砲弾を放って攻撃して行った。そしたら応龍は打撃を受けて倒れかけたが、火炎弾を放って行って

飛龍を戎橋の川に並ぶビルの屋上に落として倒したが、飛龍は炎に包まれた鳳凰の火の鳥となって飛んで行き応龍に火炎砲弾を放って打撃を与えた。戎橋の川で沈んでる青龍は自尊心を燃やして復活して川の底から飛び出して応龍に青い火炎砲を吐いて衝撃を与えた倒れた。戎橋の上で倒れた応龍は天馬ペガサスとなって何処かに飛んで行った。青龍と火の鳥は夜の天空に去って行った。戎橋にいる警官隊は忍者の勇斗に銃を向けて逮捕しようと思ったが、勇斗が黒頭巾を外して正体を明かして橘刑事は「相生くんか 銃を降ろせ」と言って指示した。民衆の脇から沙織が出て行き勇斗のいるとこまで行って抱きついて二人は抱き合った。警官たちと民衆は声援を上げ

て歓迎した。殺生をして邪気を帯びて天に登れなくなった蝮から千年龍となって年老いた応龍は「嘗ては帝王である黄帝に就いたこともある」と思って頭に角がある翼の生えた白いペガサスとなって天王寺付近にある通天閣に展望台の上で魔界から魔神サタンディアーズが闇の声で囁いてペガサスを悪魔に衣装換えさせて陰と陽が司る悪魔のエリートであるルシファーフィールドとなった。ロスにいるマーク刑事は龍児木村の死について「とうとう悪魔は怯んだか」と呟いた。あれから一ヶ月後5月30日に勇斗と愛美と沙織は勇斗のマンションの屋上に隠してあった時空転送の門と三次元装置を明治元年5月30日と設定して時空転送の門を潜って行った。それを見ていた翼の生えたルシファーはマンションの屋上に飛んで行って、勇斗らが残して行った東京理科大学研究所から届いた袋に外郎薬の銀玉が一玉り入っていたの見て口の中に入れて飲み込んで時空転送の門を潜って行った。

帰還して未来から戻ってきた勇斗と愛美と沙織は難波新地一丁目の空き地にいた。勇斗たちは難波村で馬車が通る道を歩いて行くと明治風俗の格好をした村人が変わった格好していると思いきや不思議そうにこっちを見ては通って行った。明治風俗の格好に着替えた勇斗たちは旅役者をしている泰三が神戸にいるとの情報を得て百舌の辺り税関である関所に出会い斬神刀が入った木剣袋を下げた勇斗は幕府に「おい その木剣袋を見せろ」と言われたので大事な斬神刀を見せて合えなく手渡した。刀狩り制度の違反として処罰を受けざる終えなかった勇斗に愛美が弁天様と知られる愛姫の気がついた幕府は「愛姫殿を護る刀で御座りましょう」と言って斬神刀を返した。そこから長い道を歩いて神戸を訪れた勇斗たちは大衆一座の舞台を拝見して泰三が立ち回り演技をしていると分かって芝居が終わるのを待った。頭に双角があって上半身は白い肌の筋肉質で蝙蝠の翼が生えて下半身は黒いタイツを履いたルシファーが世界の中心にある近代化が始まった大阪にやってきた。ルシファーは難波新地一丁目の空き地にある時空転送の門と三次元装置を額にある赤い黒子から稲妻ビームで破壊した。藤堂家の裏切りで大阪城（錦城）の城主の徳川慶喜（烏天狗）は鳥羽伏見の戦いで幕軍が敗れたと聞いて逃亡して行方が解らなくなっていた。慶喜の暗黙の了解で政権返上した大政奉還で江戸幕府の旧幕軍と明治政府の坂本龍馬が同盟国にさせた薩摩藩と長州藩の薩長同盟と土佐藩の新政府軍の戊辰戦争が起きた。紀州の将軍である稲垣宗重郎は姫路の姫路城を乗っ取り魔物の遊女を好んで居座っていた。そして姫路に設置された関所は稲垣が率いる幕府が支配していて村人が通る度に「金目の物を出しな」と言って大金や財宝を奪って行った不正が起きていた。大阪城の陣にいた西郷隆盛が率いる薩摩軍は幕末動乱の最大の激戦地の京都御所（皇居）に向かって行っていた。勇斗は舞台が終わった泰三に話かけて「歌舞伎役者から旅役者かよ 元気してた」と

聞いた。泰三は「あたぼうよ やっと戻ってきたか」と答えた。勇斗は「父上が過去に戻ってから伊賀の里を訪れたんだけど戊辰戦争戦没者の石碑に父上の名前があって兵法として幕軍に連れて行かれる柘榴が咲く頃に助けにきたんだ」と言った。泰三は「それは ここいらで藪から棒に」と言った。勇斗は「今は京都と大阪は内戦が起きているから赤穂に向けて行こう」と言った勇斗たちは歩いて行った。姫路城の城下町近くにやってきて関所に出会った勇斗たちは成り済まし七変化の術で竹杖を持った僧侶に扮してお金を渡して通過しようとした。しかし幕府は「異形な格好をしておるな」と言って勇斗たちは止められた。勇斗が竹杖の中に斬神刀を隠して持っていた竹杖を調べようとしたので勇斗と愛美と泰三は沙織を置いて黒い装束に黒頭巾を装った忍者となり幕府は「ここを通すわけには行かない」と言って刀で攻撃してきて勇斗は竹杖の中に隠していた斬神刀を取り出して赤い鞘から斬神刀を引き抜いて愛美は両手に卍剣を持って泰三は長刀を両手に持って斬り合いが始まった。勇斗と愛美と泰三は幕府に鉄砲を向けられて武器を下ろした。幕府は勇斗たちを姫路城に方に連れて城下町を歩いた。勇斗は城下町の屋根の上にいる猫の細くなった猫目を見て時間は20時くらいと解った。

アテネの神に逆らって天使から悪魔にされたルシファーが悪戯をしすぎてゼウスの神によってペガサスにされていたが再び魔界から囁いた魔神ディアーズによってルシファーとなったために痛

恨の極みを勇斗たちに思い知らせようと企んでいた。姫路城で稲垣将軍のところに連れてこられた勇斗たちだが、泰三は兵法として幕軍に持って行かれて愛美は愛姫と知って捕われた城主と姫路城の模型を見て名付けられた雛形天守にある中奥の姫たちの中に入れられた。翌朝に檻の中に入れられていた勇斗は幕府に逆らったために姫路城の日本庭で囲いのある格技場で処刑ゲームをさせられるはめになった。格技場の扉を開いて入った斬神刀を奪われて無防備の勇斗は黒い装束に黒頭巾を装った。向こう側の扉からは小鬼の仮面を被った怪力男の魔獣アンドレザコリンが入って格技場の外に集まっていた群衆の歓声を浴びた。武器はハンマーだけで何方かが倒れるまでこのゲームは終わらないデスマッチが始まった。巨体で毛むくじゃらのコリンは勇斗に向かってハンマーを殴ろうと攻めてきた。勇斗はコリンの攻撃を避けながらコリンの足をハンマーで殴って行った。コリンは勇斗にハンマーを振り回して投げて突進してきた。コリンに掴まれた勇斗はハンマーを手から落とした。勇斗は怪力で肋骨などを砕かれる前に殴極打の三要素を持った功で後ろで掴まれたコリンの腕を解き放した。直に勇斗は火炎火遁の術で火炎を放ったが、コリンの口から青い火炎を放されて交わされた。勇斗は火炎風車舞の術で火炎がコリンに向けて風車が舞い火達磨にするはずが、魔術で水の波を起こして撥ね除けられた。勇斗は火炎噴火山の術でコリンの周辺の地面から火炎の噴火を放ったが、魔術で大量の水を落として火炎噴火を止められた。コリンは

勇斗に向けてハンマー投げをして腹に倒した。最後の一撃を打ちにコリンはハンマーで勇斗の頭を向けて振ろうとしたときに格技場に何者かが十字架を投げてきた。十字架の力によって魔神ディアーズの黒魔術と見られる呪いが解けたコリンは小鬼の仮面が真っ二つに割れて倒れた。コリンは勇斗が昔から知ってる山男だった。格技場を観覧していた稲垣将軍は幕府に「けしからんあの者を引っ捕らえろ」と言って勇斗に向かわした。

鎖の掛かった扉を解いて格技場に入ってきた幕府の刀を奪って勇斗は掛かってくる幕府を片っ端から斬り裂いて行って倒した。格技場から出てきた勇斗は稲垣将軍に「なぜ～ 山男はあんな化け物にされていたんだ」と聞いた。稲垣将軍は「魔神サタンディアーズ様は山男が木に登って降りれなくなった少女を助けただけなのに村人たちから腐されて見下されて村を追放されて行く当てがなくなった山男を呪術で魔獣アンドレザコリンにした」と答えた。勇斗は「そうだったのか

じゃあ貴様は妖魔だな」と訪ねた。すると稲垣将軍は「その通り我は魔界の使われもの」と言って大百足となって行った。群衆が散らばる中で大百足は勇斗に襲い掛かっては

口から火炎弾を放って行ったが、勇斗は瞬間移動の術で避けて行った。勇斗は襲いくる大百足に仮分身の術で5人の勇斗になって刀で斬り裂いて行ったが、斬神刀でないただの刀では効果なく刀を手放した。仮分身の術を解いて一つになった勇斗は忍術で戦っていた。雛形天守の中奥にいる愛美は絡繰り扉から出て行き黒装束に黒頭巾を装って見張りをしている幕府の刀を奪って掛かってくる幕府を斬り裂いて行った。雛形天守の城主と中奥の姫たちを解放した愛美は奪われた斬神刀と卍剣のある場所を探して行った。愛美は稲垣将軍が居座った

ところに辿り着いて武器を探ろうとしたら、ひねくれたゲスい遊女が現れて「武器なら武器庫にあるよ だけど鍵がないと開けられないの 鍵が欲しければ腕づくで取ってみな」と言った。愛美は「馬鹿にしないでよ

あんたなんか簡単にお陀仏よ」と言って鞘から刀を抜いた。着物を着た遊女は両手に小刀を持って斬り合いが始まった。愛美に腕を斬り裂かれた遊女は轆轤っ首となって正体を現した。回った首の轆轤っ首は愛美の体に回った首を絡めて行って苦しめた。愛美は殴極打の三要素の功で絡めた轆轤っ首を解き放して花ノ舞木遁の術で轆轤っ首を花枝舞った毒棘で突き刺して痺れさせて回った首を斬り落として倒した。愛美は着物の帯に刺してある鍵を取って行こうとしたら、轆轤っ首が斬り落された回った首を元に戻して甦り立ち上がってきたので急いで武器庫に走って行った。襲い掛かってくる轆轤っ首を避けて武器庫を探して走ってきた愛美は武器庫を見つけ出して扉に掛かった錠の鍵穴に鍵を合わせて開けて入り斬神刀と卍剣を手戻した。武器庫に轆轤っ首がやってきて、愛美は襲い掛かる回った首を今度は般若波羅蜜多と刻まれた斬神刀で首を斬り裂いて首を落して倒した。襲い掛かってくる大百足の忍術で打撃を与えて背後に回った勇斗は大百足の尻尾から緑色の毒霧ガスを巻かれて目が見えなくなって倒れ込んだ。勇斗に最後の一撃を撃とうと口から火炎弾を放そうとした瞬間に関所の近くで隠れていた沙織が雪娘となって姫路城下に現れて最大の力を振り絞って大百足に向けて白い氷の粒を舞って凍結させた。愛美は急いで勇斗のところへ斬神刀を持ってこようとしたが、勇斗が倒れているのを見て大百足の胴体に斬神刀を突き刺した。大百足は凍結した氷をひび割ってバラバラに落ちて行って倒れた。雪娘の沙織と愛美は勇斗のところへ行って倒れてる勇斗の体を起こした愛美は「大丈夫か 兄貴」と聞いた。勇斗は「目が見えないんだ」と答えて「大百足は倒したのか」と聞いた。愛美は「沙織さんが雪娘になって」「私が止めを刺した」と答えた。勇斗は「何 沙織は雪娘に戻ったのか」と聞いた。雪娘の沙織は「しかたなかったのよ 勇斗が危なかったから」と答えた。勇斗は「せっかく 俺が愛だかで暖めて人間にしたのに」と言った。雪娘の沙織は「ごめん」と言って勇斗の手を取った。勇斗は「手が冷たいね 君の顔が見たいよ」と言った。「じゃあまた愛だかで暖めてよ」と言った雪娘の背中にルシファーが額の赤い黒子から稲妻ビームを放って倒した。勇斗は雪娘の沙織を抱いて「大丈夫か 沙織」と聞いた。雪娘の沙織は勇斗に抱かれながらも「人間になれて楽しかった 勇斗 本当にありがと」と呟き目を閉じて体が氷の粒になって拡散して行った。勇斗はルシファーに向かって「手前 何してくれたんだよー」「絶対に許さない」と叫んだ。愛美は勇斗を抑えながら「お前は何者だ」と訪ねた。ルシファーは「私は魔界のエリート ルシファー」「貴様らのおかげで人間に染み付き世界の中心にある大阪を魔界で支配しようとしたが応龍からペガサスとなった」「よくも邪魔をしてくれたな しかし今は魔人ディアーズの呪力によってルシファーの復活を遂げた」「第六天魔王の魔神ディアーズが甦れば世界を魔界で支配できると思ひ仏道修行の妨げをしていた波旬（悪魔）の魔人ディアーズを僧侶たちが封じ込めた」と答えた。ルシファーは勇斗に「私はお前の大事なものを奪った もうようはない」と言って蝙蝠の翼を広げて空中にいたルシファーは何処かに飛んで行った。勇斗は立ち上がって「まてー 逃げるのか」と叫んだ。愛美は勇斗を必死に抑えて「今は敵う相手じゃない 時間を待って沙織の仇を撃とう」と言った。格技場から目覚めて起き上がってきた山男は勇斗を担いで「相生さん 甲賀の隠れ里に行けば目薬の木があります それを湯で煮て冷まして飲んだり目を洗おうたりすればよく見えるようになる」と言って愛美も後を付いて城下町を歩いて行った。勇斗を担いだ山男と関所まで来た愛美は「山男 ここから私たちは大鷹を呼び甲賀の隠れ里に向かって行こ

うと思う けどそこ何処にあるか解らないんだ 敵だったから」と聞いた。山男は「わいも解らん 隠れ里だでな」と答えた。愛美は大鷹を口寄せで口笛を吹いて呼び山男が勇斗を大鷹の背なに乗せて愛美も大鷹の背なに乗って山男に「ありがとう」と言って甲賀の山に向かって空へ飛んで行った。空中で大鷹に乗った勇斗は愛美に「沙織は天国で蓮の花となって物の怪でない人間の行く霊界に行ったな」と言った。愛美は「そうだね きっとまた人間に生まれ変わって兄貴のところ会いにきてくれるよ」と言った。勇斗は「そうなるといいがな 人間へドロの物の怪退治が終わったかと思ったのに 今度は

悪魔か こいつは何かの前触れだぜ」と言った。甲賀の山が見えてきて勇斗と愛美を乗せた大鷹は山麓で降り立った。大鷹と離れた勇斗と愛美は黒頭巾を外して勇斗を導きながら山道を歩いて[助けて]と言う秘密文字を木に刻んで行って黒装束や黒頭巾などを林に張って[道に迷っている]と言う隠語を置いて行った。明治風俗の格好した杖を割って杖にして歩いたいた勇斗とそれを導いていた愛美は暫く歩いてきた林の向こうから横笛の音が聴こえ始めて横笛を持った巫女が山道の前方に現れた。歩いて行く横笛を持った巫女の妖艶な少女に勇斗と愛美は遠くから付いて行った。横笛を持った巫女は曲がった広い山道に出て登って行ったところから脇道の竹藪の中へ入って行って小山に隠れた甲賀の里が見えてきた。甲賀二十三家の元忍者である甲賀盗賊団たちが現れて長となった新崎渉は「久しぶりだな 未来に行ったのに また会えるとは光栄だ」「お前との戦いでは敗れたが我々の甲賀の里は残っている」と言った。勇斗は「お願いがあってここにやってきた 大百足の毒霧を浴びて目が見えなくなったんだ 甲賀の里に行けば目薬の木があると聞いて それ頂けないか」と聞いた。

渉は「いいぞ」と言って勇斗と愛美を屋敷に連れて行った。屋敷で寝かされた勇斗は目薬の木をよく煮立って冷ました目薬の木茶を持ってきた横笛を持った巫女だった妖艶な少女が桃色の装束で忍びの格好をして持ってきた。妖艶な少女は勇斗の口の中に目薬の木茶を含まして飲まして、今度は勇斗の目を開かして煮込んでいたときに使った目薬の木が入った薄い生地袋を目に染込ました。それを繰り返して5日間を愛美は勇斗の側から離れずに目が見えてきますようにと願って看病した。何時しか勇斗はぼやけて微かに見えるようになった愛美がはっきりと見えるようになった。勇斗ははっきり見える妖艶な少女に「ありがとう」と言って立ち上がって渉のところに行った。渉に会った勇斗は渉に「父上が幕府に連れて行かれた ここままだと幕軍として戦争に行かされて戦死することになっている 今は助け出すことしかできない 良かったら応援してくれないか」と

聞いた。渉は「いや 我々はもう刀を捨てた以上は争いはしない」と答えた。勇斗は「そうかでも目薬の木のおかげで目が見えるようになった ありがとう」と言った。渉は「忍者の戦いは終わった」と言って勇斗に剃り付いた駒を武器にと手渡した。勇斗は「どうも 俺はまだ忍者の魂がある限り終わってない」と言った。勇斗は大鷹を口寄せで口笛を吹いて呼び愛美と一緒に大鷹の背なに乗って空へ飛んで行った。空の上で大鷹に乗ってる勇斗と愛美は明治天皇がいる京都御所を目指して向かった。京都御所の近くまできた大鷹に乗ってる勇斗と愛美は新撰組が將軍を警護した新政府軍が京都御所の前に集まっていた。そこに向かっている旧幕府軍が迫っていた。空の上で廻っている大鷹に乗った勇斗と愛美は幕軍の中で泰三の姿を見つけ出して京都御所から離

れた森の中で勇斗と愛美を乗せた大鷹は降り立って勇斗と愛美を降ろして離れて行った。京都御所に攻めてきている幕軍の中にいる泰三を助けに京都御所に向けて森の中を走って行った途中で聖書を持った欧人宣教師フランコギルバートと言うに人物に出会って立ち止まった。ギルバートは勇斗に「姫路城の格技場で十字架を投げたのは私です」と言った。勇斗は「あの時は どうもありがとうございます」と言った。ギルバートは

「魔神ディアーズを甦らせようとしてる悪魔が現れたようだったので村を渡り歩いていた」と言った。勇斗は

「俺はその悪魔に姿が見えず最大の彼女が殺されてしまった恨みがある」と言った。ギルバートは「私も実は姫路城の日本庭の隅に隠れて見ていた あの悪魔を撃つには嘗て悪魔と戦った勇者が福井にある東尋坊三段岩に突き刺した聖なる剣でしかない」と言った。勇斗は「分かった その前に急いでいるんで すいません」と言って走って行った。幕軍が勢いを増して京都御所を攻めたので新政府軍の走って行く馬に乗った武士は槍で幕軍を突いて行って歩兵は火縄銃で撃って行った。幕軍は撃たれながら鉄砲やガトリング砲で連射弾を撃って

行った。西郷隆盛が指揮する新政府軍は馬に乗った武士や歩兵が撃たれながら大砲を撃って行った。斬り合い打ち合い合戦の中で黒装束に黒頭巾を装った勇斗と愛美も参戦して行った。大砲の玉が落ちては爆発して砂を弾いてる中で勇斗と愛美は忍術で戦った。勇斗は火炎火遁の術で火炎を放って火炎風車舞の術で火炎噴火山の術で地面から火炎噴火を放って火炎風車舞の術で火炎の風車舞って幕軍を火達磨にして行った。愛美は花ノ舞木遁の術で赤い薔薇の花枝が舞って幕軍に毒棘を突き刺して痺れさせて行った。勇斗と愛美に気づいた泰三は幕軍に逆らって黒装束と黒頭巾を装って新政府軍の見方となって地雷土遁の術で地雷を放って爆発させて巨木突発の術で巨木が突発して幕軍は吹き飛んで行った。勇斗は仮分身の術で五人の勇斗となって斬神刀で愛美は瞬間移動の術であっちこっちと移動しながら卍剣で幕軍を斬り裂いて行った。愛美は泰三に長刀を投げて渡して泰三は瞬間移動であちらこちらと移動しながら幕軍を切り裂いて行った。まだまだ勢いのある幕軍に対して甲賀盗賊団が渉が率いる甲賀武士団となって新政府軍の見方として参戦してきた。渉は暴露仙水遁の術で小型水爆弾の威力を放って幕軍を吹き飛ばして行った。渉が率いる甲賀武士団は両手に持った棍棒槍で幕軍を斬り裂いて行った。勇斗は剃りの付いた駒の紐を引っ張り回して飛ばして行って幕軍を斬り裂いて行った。幕軍は勢いがなくなって引き下がって行った。勇斗と愛美は泰三に「無事で良かった」と言った。泰三は「お前らは本当によくできた子だ 助けにきてくれて ありがとう」と言った。勇斗は渉が率いる甲賀武士団に「応援にきてくれて ありがとう」と言った。渉は「我々にはこれが最後の任務だよ」と言った。勇斗は大鷹を口寄せで口笛を吹いて呼び泰三と愛美と一緒に大鷹の背なに乗って東尋坊三段岩に向かって空へ飛んで行った。福井の海岸にある東尋坊三段岩に辿り着いて泰三と勇斗と愛美は大鷹から降りた。勇斗は岩の地面に突き刺さった

聖なる剣を投極打の三要素の功で全力を振り絞って「沙織 勇気をくれ」と言って抜き取った。ルシファーは

僧侶たちが呪文で封じ込めた魔神ディアーズがいる福井の永平寺を探し出してやってきた。ルシファーは召喚魔術で呪文を解いて魔神ディアーズを甦らした。魔神ディアーズの姿は波旬（

悪魔)と恐れられていた黄金龍であった。黄金龍はルシファーに「自由にしてくれてありがとよ」「これからは世界を魔界に征服しよう」と言って永平寺から出て行って空へ飛んで行った。仏道の善根を断つ行為をした黄金龍は大阪までやってきて黒魔術(呪い)で人間と村をゴス化した邪悪な者に変えて行った。ゴス化した村の人々は妬みや恨みなどある者たちの殺し合いが始まった。黄金龍の後に付いてきたルシファーは謙遜してへりくだる控えめな態度で村の人々が意見を悔い違い窘めるのを見届けた。泰三と勇斗と愛美は大鷹に乗って大阪までやってきてゴス化した村の人々を見て大鷹が村に降り立った。泰三と勇斗と愛美を降ろした大鷹は離れて行った。勇斗は「遅かったか 魔神ディアーズは甦った」と言った。泰三は「早いとこ 食い止めなければ」と言った。愛美は「あそこに見える黄金の龍はなんだ」と自分に聞いた。勇斗は「何が起きてるか 確かめに行こう」と言ってそれに向かって行った。黄金龍は口から火玉を放って村を破壊して行った。ルシファーは額の赤い黒子から稲妻ビームを放って馬車道などの乗り物を破壊して行った。勇斗は青いサファイアが魂が宿るかのように青く光って手に取って助けを念じた。すると天空の空が輝いて青龍が現れて黄金龍に攻撃して行った。愛美は赤い珠玉が魂が宿るかのように赤く光って手に取って助けを祈った。すると赤い炎に包まれた鳳凰火の鳥が現れてルシファーに攻撃して行った。青龍は黄金龍に青い火炎痕を吐いて攻撃したが、黄金龍は火炎痕を交わして青龍に火玉を放って攻撃したら、避け切れなかった青龍は火玉を直撃して村の路地に落ちて行った。火の鳥はルシファーに火炎砲弾を放って攻撃したが、ルシファーは火炎砲弾を交わして両手に溜めてできた三日月型の電撃スプラッシュを放って攻撃したら、避けられなかった火の鳥は三日月型の電撃スプラッシュを直撃して村の建物の隙間に落ちて倒れた。勇斗は回復して目覚めて青龍の背なに乗って黄金龍のところまで飛んで行った。不死鳥火の鳥は甦って炎に包まれて飛んで去って行った。空中戦の青龍に乗った勇斗は黄金龍に「貴様が魔神ディアーズなのか」と聞いた。黄金龍は「そうだ 魔界の邪魔をしてくれる青二才が」と答えた。黄金龍が火玉を放そうとしたときに七福神である弁天様の愛美は白魔術で聖なる者の白い翼の生えた天使たちを舞い降ろして黄金龍の攻撃の妨げをした。勇斗は青龍の頭に立って黄金龍の頭に飛び移って背なに乗ってしがみついて黄金龍が振るい落とそうと舞い始めた。勇斗がしがみつiki舞う黄金龍に翼の天使たちが矢を放って行った中でルシファーが天使たちを攻撃して行って阻止した。青龍はルシファーに青い火炎痕を吐いては攻撃して翼の天使たちの攻撃を妨げた。翼の天使たちは黄金龍に再び矢を放って行って勇斗がしがみつiki舞う黄金龍の動きを弱めた。勇斗は黄金龍の背なに聖なる剣を突き刺して暴れ回り勇斗を振り落ととして村に落下して行った。青龍は空中で落ちて行く勇斗を手に掴んで助けた。勇斗を地上に降ろした青龍は攻撃してくるルシファーに青い火炎痕を放って行った。弁天様の愛美は白魔術でルシファーの呪力を追い払って行って呪術を解いた。ルシファーは悪魔力を失って攻撃ができなくなった。青龍はルシファーに青い火炎痕を吐いて攻撃したのが、当たって落下させた。飛んで逃げて行こうとしたルシファーの右の蝙蝠の翼を勇斗は聖なる剣で斬り裂いて落として飛べなくなったルシファーの腹に聖なる剣を突き刺して倒した。ルシファーは業火を浴びて地獄に落ちて行った。勇斗は天国にいる沙織に「やっと 仇を撃ってやったぜ」と呟いた。愛美はゴス化した村の黒魔術を解いて人々の暴動は静まって魔界は殲滅した。難波村は無惨な姿となったが、村人たちは改心して出

直して行く術しかなかった。

弁天様の愛美は勇斗と泰三に「私は七福神の弁財天 天界に参ります」「兄貴といて 楽しかった」と言って

「父上 いつまでも元気でいてね」と言った。勇斗は「知っていたよ 実の妹じゃないって でも弁財天とは思ってなかったな 俺も愛美といて楽しかった」と言った。泰三は「父上としては何もしてやれなかったけど

お前のこと 本当の娘のように思っていた」と言った。愛美は「今まで 本当にありがとう」と言って娘神となって天界に登って行った。明治天皇に駒回し禁止令及び紛失していた斬神刀の窃盗問題について処刑されることになったが、明治天皇の父である元孝明天皇の行実によって処刑はなくなった。明治2年になって薩摩軍の西郷隆盛は反乱を起こして戦いに敗れて切腹をした。しかし明治政府の新政府軍は勝利して旧幕府軍は完全解体した。そして明治政府によって関所は廃止された。全ての災いは大仏の手に救われた。

Sin Ninja Spirit Kaishin

執筆・撮影 八島聖彦

作成日 26年10月3日

登場人物

相生勇斗（あいおいゆうと）主人公

火遁の術 斬神刀 聖なる剣

相生泰三（あいおいたいぞう）

勇斗の父上 土遁の術 長刀

雛形愛美（ひながたまなみ）

勇斗の義理の妹 姫路城の愛姫 弁財天

木遁の術 卍剣

新崎渉（しんざきわたる）

勇斗の仲間 甲賀武士団の長 水遁の術

魔神サタンディアーズ

魔界の第六天魔王 黄金龍

ルシファーフィールド

悪魔のエリート 天馬 応龍